

明けましておめでとうございます。

日本包装管理士会
会長 山田 孝志

日本包装管理士会会長の山田孝志(35期)です。今年はCOVID-19感染症が5類に移行して、コロナ禍での巣ごもりのな年末年始から解放されて新年を迎えることになりました。平年に戻った正月を帰省のほか国内のリゾート地や海外で休暇を過ごす人が増えたというニュースを見ますが、自宅でゆっくり過ごされた方も多かったのではないかと思います。

今もロシアによるウクライナ侵攻は継続されたままで、さらにパレスチナとイスラエルの間でも戦争が始まり、双方多数の犠牲者が出ました。海外との金利差から日本の円安は継続したままで、輸入物価の上昇分の価格転嫁が進み、国内景気もデフレからインフレへの歴史的転換期を迎えたと言われています。包装業界も原材料高騰の影響を受けて包装資材の価格アップが広がりました。

インフレで諸物価が上がっていく中、日本包装管理士会(IPP)の運営も過去のままの踏襲では困難になることが予想されます。日本の生産人口の減少に合わせて、所属する会員数が減り、会費収入(インカム)が減ったという背景があります。そのため、昨年年初めに本部理事、全支部長に「IPPの再構築」が必要と投げかけ、定期大会の議題に提案しました。現在、IPP再構築のワーキンググループを立ち上げて検討中です。その結果は今年の定期大会で審議することになりますが、変化しなければ時代に取り残されてしまいます。どのように進化したらよいかは皆さんとともに考えていきましょう。

さて、WEB会議システムを導入して、全国レベルで包装管理士の歓迎セミナーを実施したり、IPPニュースは紙ベースで発行していましたが、夏の発行分は電子版での配信にしたりとIT技術を取り入れています。包装業界の10大ニュース選定委員もeメールとWEB会議の併用で東京近郊以外の会員も参加して行うことができるようになり、様々な方向から世相を反映したニュースを選定するようになりました。

最後に、日本包装管理士会の第7代会長を務められた有田俊雄氏(11期)が、世界包装機構(WPO: World Packaging Organisation)が認定する2023年の「生涯包装功労賞」(LIFETIME ACHIEVEMENT AWARD IN PACKAGING 2023)を日本人としては初めて受賞されました。約50年にわたる日本と海外の包装団体との交流を含め、世界の包装業界に多大な貢献をした証と思います。我々も偉大な先輩の後に続いて活躍していきたいと思います。

本年も皆さんと皆さんのご家族のご健康と、皆さんの会社のますますの発展を祈念して、新年のご挨拶と致します。

《INDEX》

日本包装管理士会 会長挨拶	1
日本包装管理士会選定 2023年包装界・10大ニュース.....	2
本部だより	3
支部だより	4



PACKAGING INFORMATION
包装技術者の連携と協力をめざす

日本包装管理士会 会報
No.136

ipp
news

ipp news
2024年1月25日発行
編集人/道明 誠
発行/日本包装管理士会
東京都中央区築地4-1-1
TEL 03-3543-9250

日本包装管理士会選定 「2023年包装界・10大ニュース」

COVID-19が5類に移行してコロナ禍から解放され、観光需要の回復をはじめとして経済活動が活発になりました。その一方で、円安は継続し、輸入物価の上昇でデフレからインフレへの歴史的な転換期と言われています。包装業界へもAI技術や環境負荷への対応が広く浸透し、話題になりました。

1. G7 広島サミットで世界にコミット “ボトル to ボトル”リサイクルキャンペーン

2023年のG7広島サミットの期間中に実施された「ボトル to ボトル」リサイクルの啓発キャンペーンは、飲料大手2社の異例な共同広告として報道各社は伝えた。このキャンペーンは水平リサイクルの環境への取り組みを、G7サミットの機会を逃さず日本国内だけでなく世界にコミットメントする役割を果たした。

2. 生成AI、分野横断的な変革と革新の波

2022年末に誕生した対話型AIサービスは、2023年においては多岐にわたる分野で革新的な変化をもたらした。社内の文書作成からメール作業の効率化、開発時のコミュニケーションの活性化など、様々な領域で大いなる貢献があった。包装分野ではM社が対話型デザイン生成AIを導入し、購買欲を刺激するデザイン開発に成功した。また、外装用段ボール破損の判定基準共有化にもAIが活用され、飲料業界・流通業界での統一のアプローチ促進が見られた。

3. 段ボール印刷用インキが18色に集約

現在段ボール製造時に使用しているインキは、全国段ボール工業組合連合会、全日本紙器段ボール箱工業組合連合会、および印刷インキ工業会の3組織にて定めた標準色（18色）と補整色（32色）で運用され、一部の商品に限り特練色が使用されている。2024年4月1日より段ボール製造時に使用するインキを標準色18色に集約することで、廃棄ロスインキの低減や二酸化炭素排出量の削減など環境負荷に対する効果が期待されている。

4. PETボトル直接印刷のリサイクル対応技術を開発

PETボトルリサイクル推進協議会発行のガイドラインでは、「ボトル本体への直接印刷は行わない」とされている。K社はF社の剥離インキと独自技術を駆使し、リサイクル時の品質低下の問題を解決した。ペットボトルへ直接デジタル印刷することで、シュリンクラベルの剥がし作業が不要となり、消費者の手間が大幅に軽減される。また、この技術により温室効果ガス排出も約84%削減を見込む。K社は協議会への申請を完

了し、今後は自社に留めず技術を広く展開する方針を発表した。

5. 循環型社会への一歩 詰め替え用パックのリサイクル推進と企業協力

日用品メーカーが詰め替え用フィルム容器のリサイクル推進を図り、企業間協力を進めている。フィルム容器が異なる素材からなるためリサイクルが難しい問題に対処し、利用可能なリサイクル材料・容器を設計した。また他の日用品メーカーに容器の素材情報の共有を呼びかけ、消費者・行政・流通との協力を通じて分別回収の仕組みを構築中である。業界ライバルが協力して課題解決を目指すこの取り組みは、循環型社会の構築に向けた重要な一歩といえる。

6. 包装・容器出荷額、14年ぶりの6兆円台回復

(公社)日本包装技術協会は22年の包装産業出荷統計を発表した。包装・容器出荷金額は前年比6.9%増の6兆788億円で08年以来14年ぶりに6兆円台に回復した。一方、包装・容器出荷数量は0.2%減の1,921万トンだった。出荷数量は前年割れしたが、原材料・エネルギー価格の高騰、急速な円安などが大きく影響し、前年より約3,900億円の大増加になっている。

7. 使用済みコピー用紙で高性能緩衝材

S社の開発した紙系緩衝材は、社内の古紙回収システムで収集した使用済みコピー用紙を原料とし、独自技術により水をほとんど使わずに繊維化を行い、緩衝材として最適に成形することで衝撃を吸収する効果を確保した。EPS緩衝材と同等の衝撃吸収性を持ち、廃棄時は段ボールと共に全体を古紙としてリサイクルすることが可能で、「2023日本グッドパッケージングコンテスト」において、ジャパンスター賞を受賞した。

8. 医薬品業界においても、環境負荷低減への動きが強まる

ある大手医薬品メーカーでPTPシートの回収プログラムが始動した。他企業との連携の下、横浜市内で地域ぐるみの回収実験を実施し、それ以外の企業でもPTPシート廃材のリサイクル化の動きが進展している。

一方で、バイオマスやリサイクル材を一次包装として採用し、また製造・提供する企業も現れる等、バイオマス及びリサイクル材を用いた包装を採用する企業が増加している。医薬品企業や関連企業において、多種多様な方向から環境負荷低減への取り組みが加速している。

9. 有田俊雄氏が日本人初の「生涯包装功労賞」を受賞

日本包装管理士会の第7代会長を務められた有田俊雄氏（11期）が、世界包装機構（WPO：World Packaging Organisation）が認定する2023年の「生涯包装功労賞」（LIFETIME ACHIEVEMENT AWARD IN PACKAGING 2023）を受賞した。この賞は日本人の受賞は初めてで、2023年のインターパック会場で表彰された。約50年にわたる日本と海外の包装団体との交流をはじめ、世界の包装業界に多大の貢献をした。

10. 各種展示会の開催が復活。暮らしの包装商品展2023も開催

今年もJAPAN PACKを始め、FOOMA、インターフェックス、高機能材Week(SUSMA展他)等、各種展示会が開催された。各展示会の出展社数及び来場者数が復活・増加し、改めて“コロナ後の包装業界”を印象付けた。また「暮らしの包装商品展2023」が、10月26日・27日の両日、東京丸の内（KITTE）で開催され、「2023グッドパッケージング展・2023年(第47回)木下賞受賞作品展」が併催された。

*** E メールアドレス登録のお願い ***

活動によっては、会員の皆様にEメールで連絡を差し上げる機会が多くなっております。

会員の方には必須事項として、連絡用Eメールアドレスの登録をお願いいたしておりますが、まだ未登録の方がおられます。

下記事務局宛Eメール送信で登録をしていただければ幸いです。

e-mail : ipp@pk9.so-net.ne.jp

本部だより

包装管理士講座58期生修了式 (東京会場)

副会長 古平 篤 (25期)

10月20日、包装管理士講座の東京会場・58期生の修了式がJPIの主催で行われ、日本包装管理士会からは4名が出席しました。場所は東京駅八重洲口近くのフロントビル6F AP日本橋で15:00～17:00まで開催しました。今年の東京会場の合格者は221名で、約90名の方が出席しました。来賓の挨拶に続いて、関東地区合格者の名前が呼ばれ、金賞、銀賞、銅賞の表彰が行われ、16時頃に式典は終了しました。



その後は懇親会が催され、ほとんどの方が修了式に続き参加しました。講座受講中に得た経験を共有し、再会での会話が深まり、自己PRや名刺交換などを通じて、和やかな雰囲気での懇親会が進行、17時には幕を閉じました。これからは多くの方に日本包装管理士会への入会を期待しており、私たちの組織をより活気づけたいと考えています。今後は、58期生をフォローアップするために、見学会やセミナーを開催する予定です。58期生の皆さん、どうぞよろしくお願ひ致します。また、58期生の皆さんは、名刺に「包装管理士」の称号を入れてください。



【悲しいお知らせ】

塚本 富陸氏が2023年3月19日に82歳で逝去されました。長年にわたり本部・関東支部の事務局長として、大変お世話になりました。ご生前のご厚情に深く感謝し、故人のご功績を偲びつつ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

西日本支部だより

西日本支部 副支部長 末松洋亮（25期）

西日本支部は会員間の交流の場として、見学会、研究会、講演会などを主体とした活動を進めています。コロナウィルス感染対策による活動制限が緩和されましたので、対面による開催も含め、充実した事業企画とするため、今年度もJPI西日本支部殿と連携し取り組んでいます。

◆第58期 包装管理士合格者

当支部では27名（生活者コース11名、輸送コース16名（うち1名は昨年からの受講者））の包装管理士が誕生しました。合格された皆さん、おめでとうございます。

包装事例研究発表会、合格証書授与式及び懇親会

- ・日程及び会場：2023年11月2日
西鉄イン福岡2階Aホール会議室
- ・講演者：第58期包装管理士受講者（6名）が発表
- ・懇親会：西鉄イン福岡1階
ウォーターサイト オットーにて開催



包装事例研究発表会の様子



講座受講時（豊橋）の様子



包装事例研究発表会の様子



講座受講時（豊橋）の様子



包装事例研究発表会の様子

◆今後の活動予定

JPI西日本支部との共催事業として、講演会、見学会、交流会を予定しています。なお、今後の状況により、開催内容等を変更することがあります。

東北支部だより

東北支部支部長(38期) 鈴木 雅彦

今回のIPPニュースが発行される2024年は皆様どの様なスタートを切られたでしょうか。物流の改革の年がスタートですね。包装仕様がますます重要な要素となる事は、間違いのないと思っています。包装管理士の活躍の年がスタートしたと思っています。

さて、東北支部の会員は東北6県に及び各方面で活躍されている方々で構成されています。今年も東北支部に12名の包装管理士が誕生しました。



東北支部恒例である包装管理士に合格された方から「2023年東北支部包装技術研究発表大会」として包装論文の発表をお願いしています。今年も昨年11月10日金曜日に、仙台の江陽グランドホテルにて開催致しました。多くの参加者のもとで、5名の方々から包装論文の発表を頂きました。皆さん丁寧にまとめて頂き、分かりやすくパワーポイントを活用して発表頂きました。そして活発な質問や感想を頂き、とても有意義な時間を共有できました。昔の管理士講座は受講最後の面接は、論文の内容についての面接が有りました。しかも研修員が6名ほど前に、とても緊張したのを覚えています。時代が過ぎ今では、論文の内容を支部で発表する研究発表大会を行っています。これは発表者にとっては、とても良い経験になった事と信じています。その後、合格証書授与式そして交流会を開催致しました。第58期の輸送包装と消費者包装の受講者が、初めて顔を合わせる場ともなり、大変盛り上がった会となりました。やはり対面で実施できる事の大切さ、楽しさを心から感じました。

包装管理士の資格は取れてもこれからがスタートです。多くの方々と関係づくり出来るのが、包装管理士

会の場と考えています。また、時代の進歩にもついて行くために情報交換できる良い場である事を再認識しました。東北地方は近くて遠い距離に会員が分散していますが、これからもそのような出会いの場や、時には楽しい情報交換会などを計画して行きたいと思っています。セミナー等はWebを活用して年2回開催で進めてまいります。

これからも会員各位のご協力を、よろしくお願い致します。



関西支部だより

関西支部 木野元 朝幸 (36期)

関西支部では2月の50周年式典の後、運営委員3名を迎え、新たな体制で活動を行っています。従来のセミナー、W会との合同セミナー、工場&セミナーの充実を図りながら、今後の新たな企画も検討しています。今回は関西支部の活動、新たな運営委員の紹介について紹介します。

1. 活動報告

◆第49回ミニセミナー

2023年7月13日 17:00-19:00

大阪市立総合生涯学習センター

- ① 「乾燥剤の有効距離と効果発生までの時間」
日本化工機材(株) 高橋裕美様
- ② 「XACTI遠隔支援ソリューションシステム」
(株)ザクティ 半田宗平様

高橋様より、JIS規格にはない乾燥剤の有効距離と効果発生までについて講演いただきました。実際の時間測定結果に基づき、より安全な防湿包装への検討内容を説明いただきました。

半田様からは高い技術力に基づくデジタル映像ソリューションを活用した遠隔支援について講演いただきました。スマホをカメラに接続するだけで、オフィスに居ながらリアルタイムで現場にいる圧倒的臨場感を再現できる遠隔支援ソリューションを説明いただきました。



高橋講師



セミナー後の交流会

◆第50回ミニセミナー

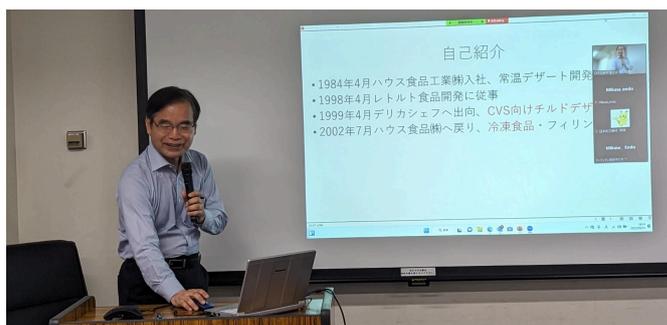
2023年9月14日 17:00-19:00

大阪市立総合生涯学習センター

- ① 「錆はどうやって発生するのか？」
もりや産業(株) 山本隆人様
- ② 「冷凍食品・デザート開発者が包材に求めるもの」
東洋食品工業短期大学 宮尾宗央様

山本様より錆について専門用語を一切使わず、錆発生のメカニズムについて講演いただきました。分かりやすく理解でき、また錆を防ぐ方法や改善事例も紹介いただきました。

宮尾様からは食品メーカーでの30年余りの製品開発での経験に基づく食品の中身や流通温度帯による包材に求める要素を講演いただきました。貴重な経験に基づく、非常にソフトで分かり易い内容でした。



宮尾講師



セミナー後の交流会

◆包装管理士会&W会 第14回合同研究会

2023年10月19日 17:00-19:00

大阪市立総合生涯学習センター

- ① 「循環型パッケージ実現に向けた海外の取り組み課題・対策」
缶詰技術研究会 橋本香奈様
- ② 「医薬品包装の環境負荷低減の取り組み」
大成化工株式会社 戸倉寿子様



橋本様より循環型パッケージの設計は法規制の動向や拡大生産者責任、資源回収・リサイクルの実情、生産者との対話など、ループの全体像を描きながら行う必要があります。循環型パッケージの実現に率先して取り組む海外の国々が直面する課題を対策の事例を講演いただきました。

戸倉様からはプラスチックを原料とした医薬品容器包装の環境負荷に関する解決手段であるバイオマスプラスチックの活用事例と環境への取り組みについて講演いただきました。



橋本講師



戸倉講師



研究会後の交流会

◆包装管理士講座 合格証書授与式

2023年10月27日 16:30~18:30

ハートンホテル北梅田

第58期包装管理士講座 大阪会場での合格証書授与式に来賓として7名が参加。生活者包装コース56名、輸送包装コース27名が合格されました。大阪会場では銀賞と銅賞各1名が受賞され、加えてKPI賞を5名が受賞しました。



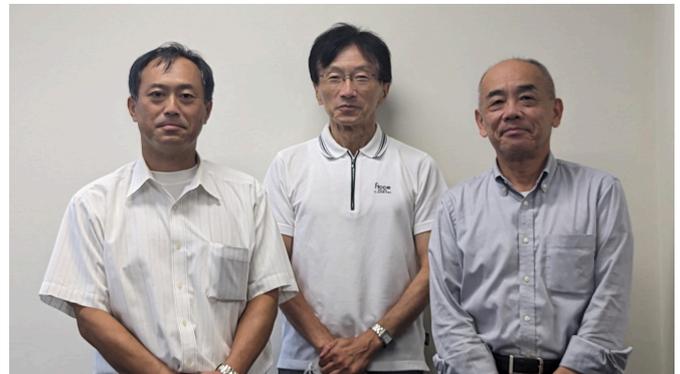
銀賞とKPI賞受賞者の方々

◆工場見学会&セミナー (詳細報告は次号にて)

2023年11月16日 14:00~17:00

キューピー株式会社 神戸工場

2、新たな運営委員の紹介 (3名)



新運営委員：左より、木野元・古井・吉永

1) 古井 真夫 (ふるい まさお)

昭和28 (1953) 年8月23日生まれ

昭和51 (1976) 年より令和2 (2020) 年まで45年間にわたり、発泡プラスチック (主にスチロール) を材料として、オーディオセット、液晶テレビ、電子レンジなど家電製品の包装設計に従事して参りました。

主なユーザーはパナソニック(株)、ダイキン工業(株)など大手家電メーカーがほとんどです。

包装設計に大事な、かつ難しいのは、強度、安全性、包装(開梱)作業性、および経済性(コスト)などの条件を全て考慮の上、バランスのとれたシステムを構築することです。その機能をクリアすべく、ユーザーのご担当と議論を重ね、納期が迫る中で夜中まで苦勞して、やっと包装システムを完成させたことにより得た達成感は今でも記憶に新しいです。

昭和63 (1988) 年に包装管理士講座を受講し、全国の包装従事者の方々と知り合い、情報交換を重ねてネットワークを拡大できたことは、この上なく大きな喜びとなり、小生の包装設計に大きく充実できたことは、日本包装技術協会や日本包装管理士会の関係ご各位に心より感謝申し上げます。

令和2 (2020) 年をもって定年退職し、今は包装管理士会の会員として現役世代や後継の方々へのアドバイスなど協力させていただき、業務の課題解消に向けて、お役に立てればと思っています。

2) 吉永 雅信 (よしなが まさのぶ)

これまで一貫して生活系事業部門に配属し、工場の品質管理や研究・開発部隊で包装材に携わってききましたが、当然ながら安全衛生面を第一にモノづくりを行って

参りました。ですが現在は資源循環や廃棄物の処理、環境負荷低減を考慮しないモノづくりはあり得ない状況で日本は諸外国に後れを取っています。

一方で日本の包装技術は秀でており、どんな問題に対しても対処できる筋肉質ですので業界横断で知恵を出し合えば難局を乗り越えられると信じて疑いません。

これまで培ったスキルや経験値、異業種を含めた人脈を活かし人材育成や社会への貢献という責務を果たしながら包装界に恩返しをさせていただく所存ですのでご指導賜ります様、お願い申し上げます。

3) 木野元 朝幸 (きのもと ともゆき)

私は段ボールメーカーであるセツカートン(株)で包装設計に携わっています。以前より関西支部のセミナーに参加し、仕事に役立つ情報や皆様方との交流を通じてかけがえのない人脈を得ることができました。

今回、支部長の桃川様よりお声掛けいただき、微力ではありますが少しでも包装管理士会始め包装界の発展にお役にたてればと思い運営委員に就任しました。

今年の3月までJPI「包装技術」の第28・29期編集委員を務め、編集委員のメンバーで力を合わせてコロナ禍の中で「包装技術」を継続できたことは貴重な経験でした。委員の方々の知識や経験、実行力や適応力を目の当たりにし、非常に刺激的な経験ができました。

また私事ではありますが、今年でセツカートンに入社して25年を迎えることができました。ここまで御指導・御協力いただいた方々に感謝するとともに、今までの教を少しでも包装管理士会の運営に活かしたいと感じています。

皆様方の厳しく・心温かい御指導・御鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



関西支部元支部長 金井隆一氏(19期) 逝去

金井隆一氏が10月1日逝去されました。(86歳) 関西支部

部長6代目(1990~1999年)時代から関西パッケージセミナー(1991~2001年)を11回開催、海外視察ツアーでは米国視察7回をはじめ、ドイツ・インターパック4回、英国(Total PP)、米国(PackExpo)、スウェーデン(Scan Pack)等先頭に立って活動され、関西支部の今日に至る活動の礎を築かれました。在りし日を偲びつつ、心からご冥福をお祈りいたします。

(関西支部支部長 桃川公一)

中部支部だより

中部支部

「ポストコロナ元年」となった2023年度は、対面で行っていた各種の交流事業が再開される一方、コロナ禍の状況下で会員各位への情報提供や研修フォローを担ってきたオンライン形式での研究例会については、引き続きJPI中部支部と連携して開催するなど、IPP中部支部では、コロナ禍がもたらした社会情勢の変化も踏まえた新しい形での事業の開催・会員サービスの提供を進めてまいります。

【JPIWEBフォーラム】

JPI中部支部と連携して「Zoom」を用いたウェビナー(最大定員500名)で実施されている「JPIWEBフォーラム」について、IPP中部支部では共同で開催しております。

10月4日(水)の「JPIWEBフォーラム」では、アサヒ飲料株式会社・技術研究所の張義宏氏より『「容器包装2030」持続可能な容器包装の実現』と題して、ボトルキャップやラベルを含むPETボトル製品への環境配慮対応を中心とする各種の取組について、お話しいただきました。

10月19日(木)の「JPIWEBフォーラム」では、地方独立行政法人大阪産業技術研究所の堀口翔伍氏から『輸送中の荷台振動の加速度PSDを簡易に取得する方法の提案』として、荷台の振動加速度の評価方法や従来の加速度計測ロガーの課題等についてご解説いただいた後、荷台振動の加速度PSDを簡易に取得する方法の検討過程についてご講演いただきました。

10月24日(火)の「JPIWEBフォーラム」では、カネパッケージ株式会社設計部の中村圭介氏より、『環境を意識した包装設計への取組み事例』と題して、リサイクル可能なダンボールを使用した包装や、最小限の素材で必要な保護機能を果たすことができるエコフレンドリーなデザイン設計、包装材の減プラやエコ素材を使用した設計などの各種取組をご紹介します。

3. 取り組み事例

10月 JPIWEBフォーラム ウェビナーの様子

ORIST 2023/10/19 25

【第58期包装管理士講座：合格証書授与式・交流懇親会】

11月2日（木）、「第58期包装管理士合格証書授与式」が行われました。名古屋会場では、今年度50名の新包装管理士が誕生し、優秀合格者として銅賞をナビエース(株)の山下彩菜様が受賞されました。授与式には、IPP中部支部から北原圭介支部長が出席し、新包装管理士へ管理士会の活動を紹介するとともに入会の勧誘を行いました。また、続けて開催された交流懇親会では、同期の包装管理士との交流や講師・テクニカルサポーターの皆様との歓談で盛り上がる中、サプライズでIPP中部支部より恒例の「頑張ったで賞」の贈呈が行われ、(株)アイシン・ロジテクサービスの本山哲朗様（輸送コース）と押尾産業(株)の清水裕太郎様（生活者コース）が受賞されました。この賞は、合格を手にするために協力いただいた同僚や家族の方へ感謝の気持ちとして渡せるお菓子となっています。



11月2日（木）「合格証書授与式」の様



11月2日（木）「交流懇親会」の様

【包装技術講習会】

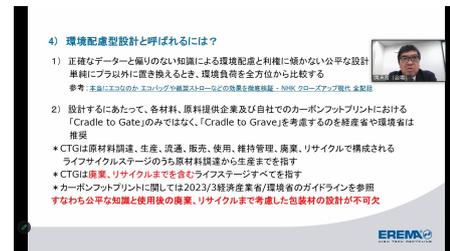
11月15日（水）、「Zoomウェビナー」を利用したオンライン開催にて、JPI中部支部・IPP中部支部のほか、あいち産業科学技術総合センター産業技術センター、愛知工研協会との共催で「包装技術講習会」を実施いたしました。

はじめの講演では、『乾燥剤の有効距離と効果発生までの時間』について、日本化工機材株式会社・技術本部R&Dセンターの高橋裕美氏より発表をいただき、乾燥

剤の設置位置による防湿効果の違いの検証や効果的な防湿包装の方法検討等についてご講演をいただきました。続いて、エレマ・ジャパン株式会社・取締役の内藤稔氏が登壇し、『プラスチックリサイクル側から見た環境配慮型設計とは？～ Green Washing と呼ばれないために～』と題して、食品包装を中心とするプラスチックリサイクルの現状などについてご紹介をいただきました。



11月15日（水）「包装技術講習会」の会場およびウェビナーの様



北海道支部だより

北海道支部長 會田慶太（47期）

新年あけましておめでとうございます。管理士会会員の皆様におかれましては如何お過ごしだったでしょうか。

2023年5月8日新型コロナウイルス感染症の位置づけが、5類感染症になり、これまで停滞していた様々な事柄が動き出しました。コロナ自体は無くなってはいませんが、社会全体が明るく活気が戻ってきた……。そう思える年になる予定でした。しかしながら、ロシアのウクライナ侵攻が続いている事による物価上昇、人手不足、過去最高となった猛暑、アルプス処理水放出による影響。5類移行による人流の回復で期待していた、我々の「包装」に関わる分野の完全回復はまだ少し先であると感じてしまう年でした。

支部だより

さて、我々北海道支部について少し報告をさせていただきます。既述の通り、コロナが明け、少しずつですが、各種行事の活動が出来るようになりました。何よりも、うれしかったのが、第58期包装管理士合格証書授与式及びその後の懇親会を開催出来た事です。コロナによりしばらく開催出来ておらず、新たに合格した仲間に出会える機会が無くなっておりましたが、皆様のご協力により開催する事が出来ました。これからの支部活動において、エネルギーに活動をしてくれる若い仲間の力は必須です。これを機に、活動の輪を広げていきたいと思った次第です。

もう一つ。北海道全体についても報告をさせていただきます。2023年は「暑かった」。これが一番の印象です。本来の北海道は湿気もなくカラッとした気候で、本州から来られる方々の避暑地的な存在でしたが、7月以降、過去にない暑さが襲い、農産物、水産物に大きな影響を及ぼしました。北海道はまだまだ各家庭にエアコンが常備されておらず、この猛暑は全国に比べても辛かったのではないかと思います。一方で明るいニュースもありました。我が日本ハムファイターズの本拠地「エスコンフィールド」が開業されました。連日大賑わいで、全国各地からも人が押し寄せ、その経済効果も大きかったと思います。入場者数も188万人を超え、前年を大きく上回る入場者でした。

2024年。まだまだ不安要素が山積みされていますが、一つ一つクリアしていき、本当に明るい年になることを祈念して締めさせていただきます。

毎回毎回だらだらと書いてしまい申し訳ございません。。。

れたとのこと。オーナーの先祖様は、徳川家康公の秘書をされたという事などを聞き、楽しく、勉強になる興味の湧く話をたくさん聞くことができました。



花王ミュージアムは、墨田区文化の花王（株）すみだ事業場内に位置する近代的な建物です。花王の1887年の創業から今日までを「清浄文化史ゾーン」、「花王の歴史ゾーン」、「コミュニケーションプラザ」で構成され、過去、現在、未来を学習できる施設です。



関東支部だより

見学会報告

関東支部理事 福野 壽史(16期)

実施日時：2023年11月22日、午後1時30分集合

見学場所：①北星鉛筆株式会社

②花王ミュージアム

参加人数：9名

北星鉛筆（株）と花王ミュージアムの2か所を見学しました。

北星鉛筆の前身は、北海道で鉛筆の板（スラット）を製造し販売をしていました。その後、葛飾区四つ木（現在の地）で鉛筆製造会社を引き継ぎ昭和26年に設立さ



情報交換会は、本所吾妻橋の「水もと」で行われました。以前のある時期にIPP関東支部理事会が近くで行われた際に親睦を深めた居酒屋です。懐かしい思いもありましたが、出席者が4名と低調でしたことが残念です。見学会当日は、秋晴れの快晴で暖かく天候に恵まれた会となりました。しかし、コロナ前と比べると参加者が少なく、参加の呼びかけを積極的に行う必要性を感じました。

第18回楽しい写真展 開催報告

IPP写真研究会会長 荒牧 哲(23期)

猛暑が少し和らいだ10月上旬に、当写真研究会は恒例の横浜山手の洋館での写真展を開催しました。来場いただいたIPP会員の皆様、ありがとうございました。



作品展示の様子

展示期間 2023年10月6日(金)正午～9日(月)午後3時

会場 横浜山手234番館ギャラリー

作品内容 紀行、風景、花火、鳥など
3枚組の写真と選りすぐり1枚を
A3サイズで、計24枚展示

入場者数 402人(前年は336人)

会期が3連休に重なり500人越えを期待したが、10月9日スポーツの日が雨で400人に止まりました。

昨年に引き続き、写真展開催の2か月前から、写真選び・トリミング・調子調整などをメールで講師に指導を受け、作品のレベルアップを図りました。展示写真を掲載した小冊子「FINDER 楽しい写真展2023年秋季号」を作成、小冊子はこれで3号目となりました。



3冊目となった小冊子

NHK新日本風土記で紹介された中華街の調理人が夜な夜な集う店で写真展の打ち上げを行い、彼らの郷土の味を味わいました。



撤収後の打ち上げ



飾り付けメンバー

24年度に向けて、12月4日に紅葉の鎌倉で、鎌倉在住の講師が選んだ道順での撮影会を行います。また、24年2月に24年の活動計画などを決める新年会を行います。

<会員募集>

年間活動は、2-4回の撮影会、横浜洋館での写真展、講師による添削指導と新年会などです。会員各自の写真のレベルアップを図る活動を通じて、親睦を深める集まりです。入会希望の方は、関東支部事務局へメールで申し込み下さい。

IPPコミュニ亭

コミュニ亭の活動として朝倉関東支部理事が会長を務める「板橋稲門会」のバーベキューに参加しました。50名程の参加がありましたがIPPからの出席は2名でした。会場の最寄り駅は、都営三田線の志村三丁目駅で「サンシティBBQ広場」の設備が整ったスペースで行われました。

IPP関東支部では、以前から朝倉理事が年に2回ほど開催しているBBQにイベントコラボとして参加させていただいております。



板橋稲門会BBQ

関東支部の今後の予定について

関東支部長 古平 篤 (25期)

関東支部では、2024年1月～4月までの間に新年会、見学会、セミナーや食べ歩き会、また、58期生の優秀論文を発表して頂くセミナーも検討しております。

日程が決まりましたらご案内いたしますので、58期(東京会場で受講)の方も参加をお待ちしております。よろしくお願ひ致します。



◀ Xサイト (旧Twitter)

日本包装管理士会 関東支部のXは毎日更新中。左のQRコードを読み取ってアクセスください。

<https://twitter.com/IppKanto>

編集後記

会員の皆様 明けましておめでとうございます。
今年(甲辰(きのえたつ)の年。甲は物事の始まり、辰は植物の芽が育ちしっかり形になると言われ、新しい芽が花開く様子を思い浮かべます。私たちのビジネス環境や事業活動においても、新たなイノベーションが生まれ、未来の成長が大いに期待される一年になってほしいと思います。さて日本包装管理士会選定「2023年包装界・10大ニュース」が発表されました。選定された半数の記事は、ライバル企業や異業種間、関連組織間による共同事業や共同開発、共同作業が見られ「人々が協力して動く」、まさに協働の時代に入りました。今年、これらの活動の芽を結実させる一年であることを期待します。日本包装管理士会も会員の皆様と共に成長し協力し、発展できればと考えています。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

道明 誠 (23期)

日本包装管理士会 / Institute of Packaging Professionals, Japan

e-mail: ipp@pk9.so-net.ne.jp
<https://www.ippj.net/>

■本部	〒104-0045	東京都中央区築地4-1-1東劇ビル10F 日本包装技術協会内	TEL: 03-3543-9250 FAX: 03-3543-8970
■北海道支部	〒060-0001	札幌市中央区北一条西2丁目 北海道経済センタービル 北海道生産性本部内/日本包装技術協会・北海道支部内	TEL: 011-241-8591 FAX: 011-241-3898
■東北支部	〒021-0893	岩手県一関市地主町3-35 株式会社東北ウエノ内	TEL: 0191-21-4531 FAX: 0191-21-5381
■関東支部	〒115-0051	東京都北区浮間1-7-17 *古平 篤 関東支部長宅	ipp.kanto.pack.50@gmail.com
■中部支部	〒460-0003	名古屋市中区錦3-5-21 錦HOTELビル3D 日本包装技術協会内	TEL: 052-228-2930 FAX: 052-228-2980
■関西支部	〒550-0014	大阪市西区北堀江1-1-27 イマイビル4階	携帯: 090-4305-3906 (桃川) FAX: 06-6584-8986
■西日本支部	〒849-0921	佐賀県佐賀市高木瀬西6-3-2 株式会社サガシキ内	携帯: 090-9876-7832

..... Copy & FAX 用切取線

日本包装管理士会会員登録データ変更届

■宛先 日本包装管理士会事務局 Fax:03-3543-8970 ☎:03-3543-9250

フリガナ	会員番号	番
氏名	届出日	令和 年 月 日
会社	社名 所属 住所 〒 TEL E-mail	FAX
自宅	住所 〒 TEL E-mail	FAX